

平成10年8月集中豪雨の被害状況

被害種別		被害状況	被害種別	被害状況	
人的被害	死者	3名	道路損壊	(町道)266カ所	
	行方不明	2名	橋梁損壊流失	(町道)43カ所	
	負傷者	19名	堤防決壊等	(1級河川)100カ所	
建物被害	住家	全壊	16棟	山(崖)くずれ	97カ所
		半壊	37棟	鉄軌道被害	2カ所
		流失	17棟	通信施設被害	(最大)6,000世帯
		床上浸水	153棟	被災世帯数	935世帯
		床下浸水	390棟	被災者数	3,295名
		一部破損	21棟	停電	(最大)6,000世帯
		非住家被害	920棟	断水	(最大)5,000世帯
	農地	流失・土砂流入等	999カ所575ha	被害額 66,893,684,000円	
田畑	流失等	103カ所54.5ha			
作物	水稲	811ha			
	野菜花き等	332.6ha			



混乱の中で広がる支援

道路等の交通網と電気、電話などのライフラインが寸断され、町は一時陸の孤島と化しました。住宅の被害のほか災害対策本部からの避難勧告により多くの住民が避難を余儀なくされ、ピーク時の8月30日には、避難所は65施設、避難者は1,307名となりました。小中学校や自治公民館、文化センターなどの施設のほか、地域によっては個人住宅や民間の宿泊施設なども避難施設として使用されました。



各地で道路が寸断されました(漆塚地内)

未曾有の災害に襲われ混乱する中、町内の自治会や婦人会、婦人防火クラブはもちろん、全国各地から多くの人たちがボランティア活動に参加し、復旧活動を支援してくれました。被災直後から約1カ

月の間、延べ5,000人のボランティアが厳しい残暑の中、土砂が流入した住宅での撤去作業や田畑に入った流木やゴミの搬出作業に汗を流し、救援物資の仕分けや避難所への配達、配食の準備など、様々な分野で活躍されました。



全国から集まったボランティア(旧中央公民館前)

こうした活動は、町社会福祉協議会が中心となって立ち上がった「那須町水害ボランティアセンター」によって調整が進められ、ボランティアの受付と被災者からの依頼をコーディネートしたほか、町の動きやボランティアセンターの活動内容を掲載した手書き情報紙を発行し、救援活動とともに被災者に届けられました。また、1,000件を超える個人、企業、団体等から救援物資や食料品が寄せられたほか、全国各地から3億7千万を超える義援金

復興への道のり

が集まりました。

災害から1カ月ほどで停電、電話の不通、断水した水道はすべて回復。不通となっていたJRが開通し、国道4号など国道、県道の大半が通行止め解除となりました。

仮設的、応急的作業が完了すると、町は復旧事業を本格化させるために、10月31日付けで新たに災害復旧対策室を設置し、公共土木施設や農林業施設の復旧など、町の復興に全力を挙げて取り組みました。そして那須水害から4年後、被害を受けた河川、道路、鉄道、農地、公共施設等は完全復旧し、特に被害が大きかった余笹川、黒川、四ツ川は河川改修関連事業により自然や生態系に配慮した災害に強い河川として蘇りました。



天皇皇后両陛下に水害時の様子を説明する藤田元町長(成沢地区)